

日本経営学会 学会ニュース

NO.69
2026.05

JABA

Japan Academy of Business Administration

<https://keiei-gakkai.jp/>

〒162-0808 東京都新宿区天神町 78

jaba@keiei-gakkai.jp

Topics

- 日本経営学会第100回大会(2026)
- 100周年記念事業委員会より
- 大学院生 Paper Development Workshop (PDW) 報告
- 事務局体制について
- 日本経営学会第101回大会(2027)
- 広報委員会より

■活動報告

- ・学会誌編集状況
- ・国際活動状況
- ・関連団体の活動状況

■事務連絡

巻末資料

- ・日本経営学会第100回大会(2026) 報告者募集



ホームページのご案内



日本経営学会

日本経営学会第100回大会案内をはじめ、随時最新情報を更新しております。各種申請フォームも設置しておりますので、ご確認ください。

変更申請・会費納入のお願い

新年度開始時(9月)の会員資格は、6月末迄の申請、納入分が反映されます。ご留意ください。



WASEDA University
早稲田大学

日本経営学会第100回大会(2026)

統一論題テーマ「日本の経営学100年の伝統を越えて」

2026年9月1日(火)～9月4日(金)

於：早稲田大学早稲田キャンパス

第100回大会プログラム委員長 井上善海

日本経営学会第100回大会は、2026年9月1日(火)から9月4日(金)(ただし9月1日は常任理事会・理事会・各種委員会のみ開催予定)の日程で、早稲田大学早稲田キャンパス(東京都新宿区西早稲田1-6-1)に於いて、対面にて開催されます。

日本における経営学の歴史は、1926年に設立された日本経営学会の歴史と大きく重なっています。過去の日本経営学会統一論題を見てもみると、一部の例外を除いて、現実的・実践的テーマと方法論・理論的テーマが交互に掲げられています。このような日本経営学会100年の歴史的発展系譜を踏まえつつ、今後の日本における経営学発展の方向性・課題について討議しようという趣旨で、標記の統一論題を設定しました。

サブテーマにつきましては、こうした過去の経緯を踏まえ、現実的テーマと理論的テーマの2つを設定しました。サブテーマ1「経営教育の現状と展望」では、国内外の学部を含めたビジネススクールの制度・実践・理念を比較し、日本の経営教育が果たすべき役割を多面的に考察する場になることを期待しています。サブテーマ2「経営学研究の現状と展望」では、研究に関する基本的心構え、研究テーマの設定方法、方法論やデータ収集方法等、理論的・方法論的考察とともに、研究遂行上の実践的示唆を得られることを期待しています。

今大会のプログラムでは、100周年記念事業の企画をはじめ、自由論題、院生セッション、ワークショップも含まれる予定です。詳細は日本経営学会ホームページの「日本経営学会第100回大会(2026)案内」に記載しております。大会3日目には懇親会も開催いたしますので、多くの会員の皆様のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

日本経営学会第100回大会開催にあたり

第100回大会実行委員長 藤田 誠

第100回大会は、「日本の経営学100年の伝統を越えて」という統一論題のもと、サブテーマ1「経営教育の現状と展望」は、9月2日(水)の午後に池上重輔氏(早稲田大学)、高浦康有会員(東北大学)、永山晋会員(一橋大学)に報告者、森田雅也会員(関西大学)に討論者、横山恵子会員(関西大学)に司会者として登壇頂き実施します。サブテーマ2「経営学研究の現状と展望」は、9月3日(木)午前には報告者内田大輔会員(慶應義塾大学)、清宮徹会員(西南学院大学)、清水洋会員(早稲田大学)、討論者舟津昌平会員(東京大学)、司会者小沢貴史会員(神戸大学)という布陣で実施します。おかげさまで、100回大会にふさわしい陣容になったと考えております。

また、3日(木)の午後には100周年記念講演として片岡信之元理事長など複数の会員による講演が予定されております。さらに前回に引き続き、大学院生の自由論題報告者からPaper Development Workshop(PDW)に推薦する報告者を選出いたします。

東京の宿泊施設は予約が取りづらいと言われておりますので、宿泊予定の方は早めに手配頂ければと思います。開催期間である9月上旬は、まだまだ暑さが厳しいと予想されますが、記念すべき100回大会を是非多くの会員の皆様と共有したく、奮っての参加をお待ちしております。

100周年記念事業委員会

100周年記念事業委員会 原 拓志

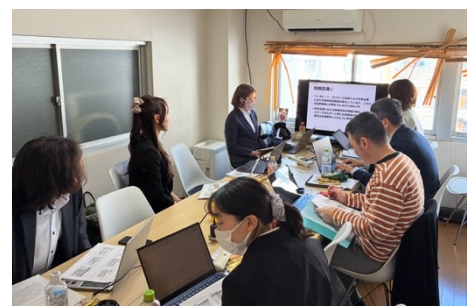
大正15年(1926年)7月10日に日本経営学会が創立されてから今年で100周年を迎えます。日本経営学会では、昨年度から100周年記念事業委員会を設置して、100周年記念事業の企画に取り組んできました。これまでに委員会は9回開催され、今期は百田義治委員長のもと、9月28日、11月9日、1月12日、5月2日に開催されました。

主な企画としては、今年の第100回大会および来年の第101回大会における記念講演の開催のほか、『日本経営学会史』増補版(デジタル版)の発行、記念表彰の実施、院生会員対象のPaper Development Workshopの開催支援、大会中の託児サービスの支援などが検討されています。このうち、すでに実施が決まったものとして、第100回大会の中で2026年9月3日(木)13時30分～16時30分に100周年記念講演「創立100周年に想う」が開催されます。講演者は、片岡信之会員(龍谷大学名誉教授)、上林憲雄会員(神戸大学)、田中一弘会員(一橋大学)、中瀬哲史会員(大阪公立大学)、藤田誠会員(早稲田大学)です。学会の歴史や経営学の動向を踏まえた大変興味深い話が聴けることと思います。ぜひ多くの会員の皆様のご参加をお願いいたします。その他の企画につきましても、詳細が決まり次第、追って皆様にお知らせいたします。

2025年度日本経営学会大学院生 Paper Development Workshop 実施報告

日本経営学会経営学教育検討委員会
研究奨励制度検討委員会
宮尾 学

2026年3月12日(木)、神戸市内にて、学会に所属する大学院生を招待してのPaper Development Workshop (PDW)を開催しました。大学院生PDWは、日本経営学会における若手研究者の育成を目的として、2025年に開催された第99回大会より導入された制度です。大学院生による大会報告の中からさらなる発展が見込める研究を選び、ワークショップでの報告、議論を経て、日本経営学会誌への投稿を目指します。



2025年度は、第99回大会で報告した大学院生から6名がPDWに招待され、うち5名が当日のワークショップに参加することとなりました。オーガナイザーは、長谷部弘道会員（日本大学）、森口文博会員（京都産業大学）、宮尾の3名が担当しました。

ワークショップは、報告者が論文について報告し、オーガナイザー1名、他の大学院生1名がコメンテーターとしてコメントする、という形式で行いました。報告者は、2月末までに論文のドラフトを提出し、コメンテーターはその論文を事前に読んでコメントを準備しました。

ワークショップ当日、大学院生たちはかなり緊張していたようです。しかし、昼食休憩中の雑談などを経て、徐々にうちとけて話せるようになってきました。それぞれ専門領域は異なりますが、良い研究をしたいという思いは共通です。お互いの研究に敬意を払いながら、ここはこういうことができるのでは？といった活発な意見交換が行われました。基本的に、論文の良いところを見つけ、それを伸ばそうというコメントが多く、論文を執筆した大学院生にとっては大きな学びの機会になったようです。ディスカッションが設定していた時間に収まらないこともあり、最後は予定の終了時刻を30分ほどオーバーして終了しました。参加者からは、「(発表後にいただいた) 質問は本研究の根幹に関わる重要な課題であり、今後最優先で取り組むべき点であると痛感致しました。」「いただいたコメントを踏まえ、まずはRQや分析結果を修正し、『日本経営学会誌』への投稿を目指して取り組みたいと思います。」といった感想も寄せられました。

終了後は三ノ宮近辺での懇親会に繰り出しました。学会でのネットワークづくりや、アーリーキャリアの築き方など色々な話をして解散となりました。

このようなワークショップを開催するのは、日本経営学会では初めての試みでしたが、参加した大学院生からは大変好評で、まずは成功といえると思います。ワークショップを実質的にキックオフくださった出見世前理事長、制度設計にご尽力いただいた経営学教育検討委員会の先生方、実行を後押ししてくださった原理事長をはじめとする理事の皆様には厚くお礼申し上げます。この制度を継続できるよう、関係者の皆様には引き続きご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。



PDW プログラム

- | | |
|-------------|--|
| 11:00-11:10 | 全体説明、自己紹介 |
| 11:10-12:00 | 堂西晴香（神戸大学大学院）
「日本企業における従業員の心理的資本とウェルビーイング
—心理的資本の下位次元に着目したfsQCAアプローチ—」
ディスカッション：森口文博、田子和詩 |
| 13:00-13:50 | 傍田真歩（明治大学大学院）
「取締役会構成の変化とステークホルダー」
ディスカッション：長谷部弘道、長岡節子 |
| 14:00-14:50 | 長岡節子（福岡女子大学大学院）
「グローバル・バリューチェーンにおける社会的高度化
—バングラデシュ縫製産業に対するアパレル企業の試みから—」
ディスカッション：宮尾学、堂西晴香 |
| 15:00-15:50 | 田子和詩（成城大学大学院）
「社内取締役と社外取締役はどのように連携するのか？」 |

	「Strategic leadership systems に基づく上場企業役員へのインタビュー調査」 ディスカッション：森口文博、中谷友香
16:00-16:50	中谷友香（神戸大学大学院） 「日本企業におけるジョブ型雇用の展開—職務概念の導入と専門性の再定義—」 ディスカッション：長谷部弘道、傍田真歩
16:50-17:00	ラップアップ

事務局体制について

理事長 原 拓志 会計・事務所担当常任理事 田淵泰男

2026年3月31日開催の常任理事会及び理事会において、本学会の事務局は、会計・事務所担当常任理事、会計担当幹事、事務所担当幹事、事務所（担当者）によって構成されることが、あらためて確認されました。

本学会は100年を経て事務局等の体制も幾多の変遷を遂げ、2018年には事務所を移転し運営委託したうえ、担当理事・幹事の業務名称や構成等も改訂したことをふまえて、このたび事務局体制について確認いたしましたので、会員の皆様に周知させていただきます。今後とも、事務局へのご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

日本経営学会第101回大会開催校挨拶

第101回大会実行委員長 大阪公立大学 中瀬哲史

日本経営学会第101回大会を来年2027年9月に大阪公立大学にてお引き受けすることになりました。記念すべき第100回の次の1回目の大会を私ども大阪公立大学で開催できることは大変な名誉であり、大きな責任を感じております。これまでの日本経営学会全国大会は、私ども会員にとって、経営学という学問を考えるうえでも、自らの専門研究を進めるうえでも、そして何よりも日本全国（中には海外）の先生方にお会いできる、大変な学びとなる貴重な機会です。これまでの日本経営学会全国大会のあり方を継承しつつ、次の「100年」に資する全国大会となるようプログラム委員会および100周年記念事業委員会の先生方のご協力を得ながら、実行委員会の先生方としっかりと準備をしております。とりわけ、「若手」（年齢ではベテランでも気持ち的には「若手」）の先生方にとって十分に意見交換が行えて「楽しく」学べる機会となるよう、自由論題、統一論題等の設け方に工夫したいと考えております。9月の大阪は猛暑ですが、その「暑さ」に負けない「熱い」大会になるように進めてまいります。詳細はまた学会ニュースなどでお知らせします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

広報委員会より

広報担当常任理事 奥 康平

●メーリングリスト【JABA-ML】登録のお願い

現在、日本経営学会ではメーリングリスト（JABA-ML）を用いて、学会ニュースや部会開催情報などを配信しております。まだメーリングリストにご登録いただいていない会員各位には、ぜひ学会ホームページよりご登録いただきますようお願いいたします。

また、宛先不明で返ってきてしまうメールも多々ございます。ご登録されているメールアドレスの変更希望、あるいはご所属変更などでメールアドレスを変更されておられましたら、学会ホームページの「[変更申請](#)」よりご連絡下さい。引き続きJABA-MLによる学会情報の適時・的確な発信にご協力を賜りますよう、何卒宜しく願いいたします。

●ホームページ会員の[新刊書籍紹介](#)の募集

学会ホームページでは、書籍の編著者である会員ご本人からの希望に基づいて出版後1年以内の書籍の紹介を掲載しております。書籍紹介を希望される会員におかれましては、編著者名、書籍名、出版社、発売日、ISBN、定価（税抜）、また必要があれば200字程度の紹介文を学会事務所でメー

ル (jaba@keiei-gakkai.jp) にてお送り下さい。掲載期間は、掲載後 1 年間とします。

なお、紹介文に不適切な表現がある場合には、修正をお願いする場合や掲載をお断りする場合があります。学会ホームページの充実にご協力賜りますよう、何卒宜しくお願いいたします。

活動報告

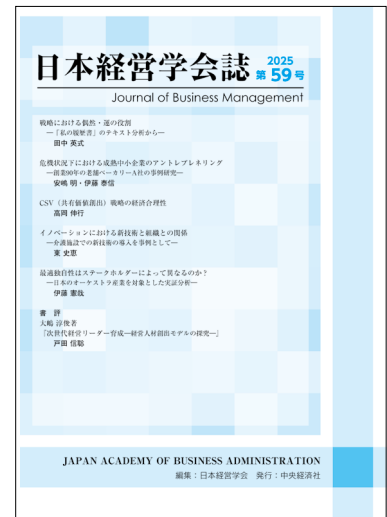
学会誌編集状況

学会誌編集委員会委員長 出見世信之

現在の学会誌の編集状況ですが、2026 年 3 月 31 日現在、2025 年の総投稿数は 27 本、採択数は今のところ 9 本（審査中 6 本）となっており、採択率は 33.3%、平均審査日数 127 日となります。東西の編集委員会が担当した内訳は、東日本 14 本、西日本 13 本です。2026 年の投稿数は、4 月 30 日現在、16 本となっています。

続いて学会誌刊行状況についてお知らせいたします。第 60 号、並びに経営学論集第 96 集である第 61 号が校正段階に入っております。また、学会ニュースの場をお借りして、投稿論文の審査を担当頂いた編集委員、及び厳正な審査をして頂いた査読者の先生方に、厚くお礼を申し上げます。

会員の皆様には、学会誌に積極的に投稿して頂きたくお願い申し上げます。その際には、学会員であるとともに、当該年度の学会費をお支払い済みであること、及び投稿規定と執筆要領に従ったご投稿をお願いします。特に、行数については、一定の余裕を持って投稿をお願い致します。



国際活動状況

国際委員会委員長 日野健太

1. JABA-SMS-IFSAM 共同事業 Meet the Editor Session

Strategic Management Society (SMS) から、Strategic Entrepreneurship Journal (SEJ) の co-editor を務める Yong Li 氏をお迎えし、6 月 19 日（金）に京都大学で、Meet the editor session を開催します。本会開催に当たっては、山田仁一郎会員（京都大学）にご協力を賜っています。お礼申し上げます。参加申込みは、5 月 19 日配信の jaba_minfo:258 をご覧ください。

2. 第 100 回大会国際委員会企画

日本の研究者と共同研究を行う内外の研究者をお招きし、国際共同研究の面白さや課題について話していただくミニシンポジウムを開催します。9 月 4 日（金）の午前中を予定しています。

3. IFSAM 2026 World Congress

2026 年 7 月 8 日（水）午前・午後 2 時半からオンラインで 2 時間ずつ開催します。テーマは「乱気流時代の経営学会の役割」です。



国際委員会は、日本経営学会から他学会と海外の研究者に提供できるコンテンツや研究発表の機会が限られているという課題を克服しつつ、国際交流を活発に行って行きたいと考えています。引き続きよろしく申し上げます。

関連団体の活動状況

経営関連学会協議会

経営関連学会協議会評議員 出見世信之 原 拓志

2025年12月7日(日)立教大学池袋キャンパスにおいて、次世代研究者共創フォーラムとして、Meet the Editors セッションおよび研究報告セッション&ネットワーキングが開催されました。本学会からも複数の大学院生会員が参加しました。2026年3月15日(日)オンライン開催で、経営関連学会協議会評議員会が開催されました。そこで、次世代研究者共創フォーラムの参加者のアンケート結果が示され、いずれも満足度において5段階評価で最高点5がMeet the Editors セッションで約73%、研究報告セッション&ネットワーキングで約58%を占め、4以上でみると100%と極めて好評でした。また、当協議会が発行している電子版英文ジャーナル Journal of Japanese Management (JJM) に関するアンケート結果についても示されました。新たに学会活動紹介などを日本語で掲載することについては賛否両論があるようです。

さらに、2026年9月19日(土)に公開シンポジウム「ビジネス人材のリカレント教育の現状と課題」(共催、主催は日本学術会議経営学委員会 ビジネス人材のリカレント教育に関する分科会)の開催が決定されました。詳細は後日公表されるとのことです。

経営関連学会協議会のホームページには、こうした活動状況の紹介に加え、ニューズレターも公開されておりますので、ぜひご覧下さい。

日本経済学会連合

日本経済学会連合評議員 三和裕美子

2025年11月18日(火)に、2025年度第2回理事会評議員会がオンラインで開催されました。2025年度会計中間報告、2025年度第3次補助申請審査報告、英文年報第45号進捗報告、『エコノミクス&ビジネス・フォーラム』Vol.1/No.1がJ-Stageにて公開されたこと、Vol.2/No.1の掲載内容について報告されました。2025年12月に英文年報第45号が発刊され、『連合ニュース』No.62が2026年3月に発刊されました。

Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 GEAHSS (ギース)

GEAHSS担当 鈴木由紀子

第9期第1回(通算第17回)運営委員会が2026年3月26日(木)13:00~14:00 Zoomによるオンライン開催されました。詳細については、[GEAHSS ホームページ](#)をご参照ください。

事務連絡

年会費納付方法のご案内

2025年度年会費納付がお済みでない方は、新年度会員資格に影響する場合がありますので早急にお手続きをお願いします。納付方法詳細はホームページの[\[年会費\]](#)の項目をご確認ください。

振込口座：ゆうちょ銀行 ○一九店 当座 0075175 ニホンケイエイガツカイ

変更申請のお願い

所属機関やメールアドレス、年会費請求方法のご希望、学会誌送付先など、登録情報に変更がある場合には、ホームページの[\[変更申請\]](#)よりご連絡ください。

年度替わりで学会誌の差戻しが多くなります。再手配には期間がかかりますので、お早めにお手続きください。

変更申請



日本経営学会事務所

〒162-0808 東京都新宿区天神町78

✉ jaba@keiei-gakkai.jp ☎ 03-3267-0200

日本経営学会 第 100 回大会（2026）報告者募集

最新情報は、日本経営学会ホームページ [[大会案内](#)] に記載しますので、ご確認ください。

自由論題報告者募集（CFP方式）

すでに学会ニュース No.68 でお知らせしたとおり CFP（Call For Paper）方式での自由論題報告者を募集しています。**会員の種別を問わず、申込時点で報告者全員が会員であることを要します。**英語セッションは設けておりませんが、英語での報告も可能です。

また第 99 回大会に引き続き、大学院生セッションに理事、幹事等が複数参加し、後日開催される Paper Development Workshop (PDW) へ推薦する報告者を選定します。研究の発展を図る企画ですので、大学院生会員の皆さんは奮ってご応募ください。

- 1) 報告者の設定人数 合計 35 名程度 (①一般会員 20 名程度 ②大学院生会員 15 名程度)
- 2) 報告討論時間 ①一般会員：報告 20 分 + 質疑 15 分 計 35 分
②大学院生：報告 15 分 + 質疑 10 分 計 25 分

会場設定の都合等を考慮し、大学院生会員の中から一般会員枠での発表に変更される可能性があることをご了承ください。変更をお願いする場合には、事前にプログラム委員会から報告者にご連絡を差し上げます。

- 3) 応募締切り **2026 年 5 月 15 日（金）～締め切りました～**
- 4) 応募申込方法 下記ウェブ・サイトよりお申込みください。

なお学会ニュース No.68 に記載のとおり、下記大会実行委員会宛メールでの応募も受け付けます。

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/jaba/waseda/>

①報告者全員の氏名、②報告者全員の所属（所属機関・職位）、③報告テーマ、④報告要旨（問題意識・論点・視点・主たる知見等、1,200 文字以内）、⑤メールアドレスを上記ウェブ・サイトよりご記入ください。メールで申込の場合、①から⑤を「A4 サイズ用紙 1 枚」にまとめて、メールの添付ファイルで送付ください。メール添付の場合、ファイルはマイクロソフト・ワードか PDF に限ります。必ず受領確認のメールをご確認ください。また、通常使用するメールアドレスから送信ください。

- 5) 諾否審査の通知
プログラム委員会において審査・選考し、5 月末日までに決定し、メールにて通知いたします。
なお報告要旨の執筆要領は諾否審査後にお知らせします。

- 6) 報告要旨集原稿の締切りと提出方法

- ①締切り **2026 年 7 月上旬を予定**（報告確定者には日時を別途通知いたします）
- ②提出方法 **報告要旨集原稿提出用ウェブ・サイトを設定するので、そちらよりご提出ください。**
学会ニュース No.68 でお知らせした提出方法から変更になっておりますので、ご注意ください。
許諾の通知から原稿提出の締切りまで短期間であることをご理解のうえ、ご応募ください。

ペーパー展示募集

論文の抜刷やワーキング・ペーパーの展示を募集します。事前に展示希望申込をすれば、論文の抜刷等を自由に持ち込んで展示・配布することができます。展示件数の上限は特に想定していませんが、希望者多数の場合は調整いたします。また会場設営の都合上、希望者は **2026 年 6 月 25 日（木）** までに下記の専用メールアドレスへお申し込みください。



各種申込先・問合せ先

日本経営学会第 100 回大会（2026）実行委員会

専用メールアドレス：jaba100@list.waseda.jp

実行委員長 藤田 誠